第45号
2019/02

PVかながわ ニュースレター

News

再エネ価値をブロックチェーン上で取引する実証事業が始まります！

実証事業の背景

再エネの導入を加速したFIT制度も、再エネ賦課金の負担増や2019年問題など多くの課題が生じており、政府は、国民のライフスタイル変革を社会システムの変化によって促す取り組みも始めています。その中で環境省では、十分な評価が難しかった自家消費型の再エネ価値活用を進めるため「ブロックチェーン技術を活用した再エネCO2削減価値創出モデル事業」を2018年にスタートさせ、PV-Netも実証パートナーとして参画しています。

ブロックチェーン上の自由取引

自家消費型の再エネがもつCO2削減価値はJクレジットやPV-Greenなどのグリーン電力証書が非化石証書の対象となっていましたが、電力量認証や審査などの煩雑な手続きが多く、小規模電源の証書化は事業として成立しづらいものとなっています。一方で、住宅用太陽光発電は230万戸、9GWといわれており、日々刻々と生まれるCO2削減価値のほとんどが埋没している状況にあります。約定、決済などの取引の履歴を正確に自動記録が可能な**ブロックチェーン技術**を使い、低コストでスピーディーな自家消費型のCO2削減価値の自由取引市場を構築する試みがこの実証実験です。CO2削減行動に対する社会的評価やFITに依存しない経済的メリットを創出できれば、賦課金の国民負担も軽減されると考えられます。

実証事業が描く未来と参加の条件

採択事業者である「デジタルグリッド」と「電力シェアリング」は、今年度に数百～数千軒規模の実証を計画しています。水道水とエビアンの価格が1,000倍も違うように、誰が、どこで、どんな想いでつくっているかが見えるCO2削減価値の価格は違うものになるかもしれません。さらに、環境対応推進企業がCO2削減価値を提供する家庭に対してクーポンやポイントを発行するなど、マーケティング活用も実証項目として検討されています。そして本実証の先に両社が見据えるのは、CO2削減価値にとどまらない、再エネ電力そのものを個人間でも取引、シェアできる社会の実現です。

【よくある質問】
Q. 実証事業への参加条件は？
A. 直近までの会費を支払っているPV-Netの会員。従来のPV-Greenからの移行を視野に入れていることから、PV-Green参加者を優先的に選定させていただく場合があります。
Q. 必要となる機器や費用は？
A. 自家消費電力の計測器、通信機器が必要です。いずれも設置費用は不要ですが、運用時のデータ通信費が月に数百円程度かかります。
Q. PV-Green同様に年に一度の電力量報告は必要か？
A. 自家消費電力のデータは自動で取得され、予め登録した希望価格にて自動的に取引が行われます。
Q. 実証事業が本番事業に移行する時期は？
A. 未定です。本事業は2018年度より3年間、最長で5年間の実証事業となりますが、実証の経過や、事業化の目処によって前後する可能性があります。

（事務局　加藤記）

世話人から

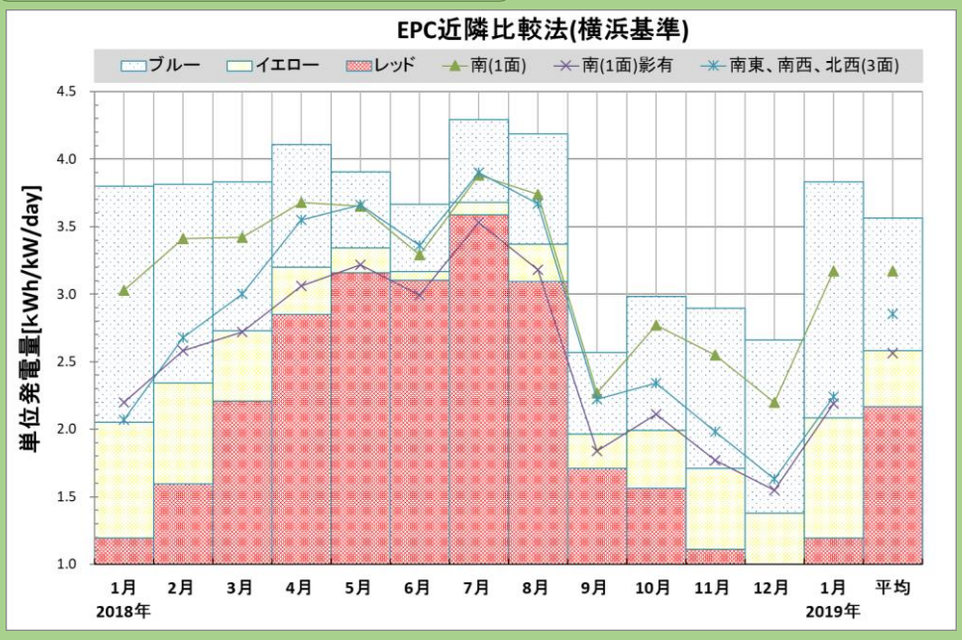
連絡事項
フォーラムかながわ2019への参加はまだ間に合いますので、ご返信まだの方は、是非、ご出席をご検討ください。

今後の予定

2019年2月16日（土）
「フォーラムかながわ2019～再生可能エネルギー・新たな時代のはじまり～」
場所：横浜開港記念会館
時間：13:00受付開始
13:30～16:30
資料代：800円
※終了後懇親会を予定

2019年3月31日（日）
ワークショップ第26回
「出前発電所をくろう！」
会場：「かるがも」(星川駅)
時間：13:40～16:30

今月の単位発電量！



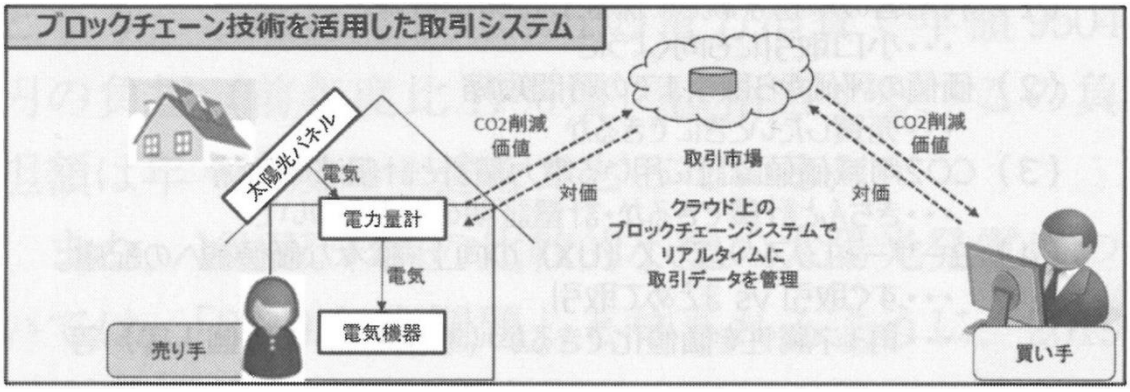
昨年末に比べると1月は、よく発電したと思います。気象庁によると1月は「北日本では冬型の気圧配置が現れやすく、日本海側では曇りや雪の日が多かったが、強い寒気 が南下したのは一時的で、降水量や降雪量は少なかった。一方、太平洋側では晴れた日が多く、月降水量平年比は 41%の少雨となった。東・西日本では、高気圧に覆われやすく、特に、東日本太平洋側と西日本日本海側の降水量はかなり少なく、日照時間は西日本日本海側でかなり多かった。月のはじめや終わりには、一時的に冬型の気圧配置が強まり、広い範囲に寒気が流れ込んで、大雪となった所もあったが、東日本以南では、総じて暖かい空気に覆われやすく、寒気の流れ込 みは弱かったため、月平均気温は、沖縄・奄美でかなり高く、東・西日本で高かった。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもありますが、レッドになる場合は、メーカなどに相談することをお勧めします。

【PV かながわニュースレター45 号参考別紙】 実証事業者 2 社の比較表（仮）

	デジタルグリッド	電力シェアリング
測定機器	デジタルグリッドコントローラ（DGC） 	簡易計測メーター（仮）
設置時期	2019 年 8 月～（予定）	2019 年 6 月～（予定）
導入費用	なし	なし
スマートメーターの導入	要	要
データ取得方法	B ルート （電力会社への申込が必要）	CT 方式
工事時間	長い （配線の状況により、数時間停電が発生）	短い
外部電源	必要	必要
通信方式	3G	LTE
実証参加の謝金	なし	あり （協力費およびデータ通信費の補填）
電力会社の切り替え	指定の電力会社（サービスプロバイダ）への切り替えが必要	不要
提供エリア	全国	全国
価値取引の方法	落札希望の価格を登録し、自動で取引	落札希望の価格を登録し、自動で取引
既存制度との関連性	検定済メーターを使用。グリーン電力証書取引に再び戻ることは可能	検定メーターは使用しない。グリーン電力証書取引を再び行うことは不可
価値の有効期限	1 年	未定
RE100 での利用	協議中	不可
決済タイミング	1 ヵ月ごと	1 回／年
その他	• 電力取引も含め、2019 年 10 月より商業ベースでの運用を開始予定	• 将来的には電力取引も視野に入れている • ポイント還元など、消費者にとって魅力的なサービスを検討

※内容は予告なく変わることがあります。



ブロックチェーン技術を活用した取引システムのイメージ